



ファクトチェックの撤廃

作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

ザッカーバーグは風見鶏？

ドナルド・トランプ氏の大統領就任式の2週間前、メタ・プラットフォームズ(旧 Facebook)のCEO マーク・ザッカーバーグ氏が、米国における Facebook と Instagram のファクトチェックを撤廃すると発表した。

1月7日、ドイツの第1公共テレビでは、これが夜8時のトップニュース。アナウンサーは、ザッカーバーグ氏の「従来の検閲は行き過ぎだった。今後は言論の自由を守りたい」という発言を紹介しながらも、「Facebook と Instagram では、これまで中立なファクトチェックがなされていた」が、「今後はそれを撤廃し、フェイクやヘイトの監視を弱める」と、まさにスキャンダルのように報道した。しかし、真実は、ザッカーバーグ氏は「これまでのファクトチェックは政治的に中立ではなかったから撤廃する」と言っているのだ。一体どっちがフェイクだか……。

Facebookの利用者は、全世界で30億7000万人。うち、米国での利用者が2億4600万人、ドイツは3100万人、日本が2600万人と言われる(それぞれ24年9月、24年3月、25年1月の数字)。ザッカーバーグ氏によれば、今後、米国では、「投稿の規制と削除を大々的に減らし」「政治的な意見の表明も制限せず」、さらに、「新しい政権とも協力していく意向」とのこと。ただし、もちろん、犯罪やテロと関わりがあるなど、社会に危険を及ぼす可能性のある投稿に対しては、これまで通り厳しく対処していくという。

「これまではあまりにも政治の圧力が強すぎた」

とザッカーバーグ氏。ただ、このタイミングがトランプ政権誕生とピッタリ重なるので、ザッカーバーグ氏を風見鶏に例える批評家もいる。ただ、今年40歳の若年である上、何万人もの従業員を抱える氏のこと、これまでは政府、およびディープステートの圧力に抗えなかったというのが本当のところではないかと、私は想像している。もしそうなら、氏は今、少しホッとしているはずだ。



トランプ米新大統領2期目就任式に参列するザッカーバーグ氏(左から2人目) (EPA=時事)

いずれにせよ、この方針転換が、トランプ大統領と関係していることは確かだ。トランプ政権のモットーは自由の回復である。米国はこのところ、極端なポリティカル・コレクトネスに縛られていたので、トランプ大統領の就任以来、そのくびきが少し外れて、米国が明るいムードに包まれているというのはおそらく本当だろう。

政治家が国民を訴える国

一方、ドイツでは、社民党、緑の党が政権について3年余り、規制や禁止事項が増え、言論の自由はどんどん縮小。政権批判にはたちまち反民主主義や極右のスタンプが押される。政治